

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	29	高知海洋	高等学校	課程	全
------	----	------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技術を得たスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する ○豊かな海洋資源を生かした実践的・体験的な学習を通して、主体性や行動力を育み、水産分野の産業振興の核となる人材を育成する
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○海、船、魚などに興味関心があり、目的意識を持って努力できる生徒を求めています ○自分の進路実現に向けて、学が意欲が高く、何事にも挑戦できる生徒を求めています ○人への思いやりを持ち、みんなと協力して取り組める生徒を求めています 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○高知海洋高校ならではの恵まれた施設や環境、土佐海援丸を有効活用した教育実践をとおして、職業人として必要な豊かな人間性を育み、水産・海洋産業の担い手としての協調性や行動力を身に付けた水産・海洋産業の振興に貢献できる人材を育成します	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	○進路実現に対応できる「学力の定着」と「資格の取得」に取り組みます。 ○規範意識を育て、社会人としての基礎力育成に取り組みます。 ○協調性や行動力を育むために、学校行事や実習等、集団活動に取り組みます。 ○勤労観や職業観を育むために、実習船の活用や産業現場での実践的な活動を行います。

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 A 】
○先生方が熱心にご指導をいただき学力の向上や資格取得率等、目標を上回っている。 ○すららやICTを活用した取り組みが数字に繋がっていると思われる。 ○体験的な学習の実践や専門性を活かした教育活動を実践している。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
○家庭との連絡を密にしたことにより、遅刻平均については目標を達成できた成果があった。 ○地域や企業と連携し地域課題の発見・解決に向けて研究し、取り組んだことを発表会で立派に発表できていた。 ○地域清掃活動や発表会等の生徒が活動することは、誇らしいことなので外部に知らせて取り組んでほしい。 ○進路決定については、現在2名未定者がいるが、全員の進路が決定することを期待する。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
○地域みらい留学やこうち留学、高校説明会等を実施して、体験航海等においては定員オーバーとなり、フロンティア入試では志願者が1.26倍と一定の成果があった。1学年40名以上の生徒確保に向けて頑張っている。 ○先生が不祥事を起こしたら学校は混乱するが、海洋高校においては不祥事防止委員会や校内研修等を十分に取組んでおり信頼できる学校づくりが行われている。	

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	1. C層以上の生徒の増加 ・1年: (R7年4月)11.1%→(R8年4月)15% ・2年: (R6年4月)7.4%→(R7年11月)10% 2. 授業外学習時間の増加 ○放課後支援講座を実施する ①ほとんど学習しない生徒の割合45%以下 (R6年1年生54.2%、2年生64.3%) ②ほとんど学習しない生徒の割合45%以下 (R6年1年生54.2%、2年生64.3%) 3. 将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1, 2, 3年生で、85%以上 (R6年80.7%)	○放課後支援講座等でICT教材「すらら」等の有効活用 ○タブレットを活用した分かる授業実践 ○放課後支援講座への出席90%を目指す。 ○参加・体験型学習の実施 ○土佐海援丸を有効活用し、身に付けさせたい力を明確化 ○職業観の育成のため、内航船セミナー・漁業セミナーを実施する。 ○資格取得に向けた補習を実施 ○卒業までに取得する資格・褒賞5以上を推奨	1については、2年4月C層13%(D層87%) 2①については、97.6%(1学期末まで) 2②については35.3% (R7.4:1年29.6% 2年40.9%) 3については、87.9% (R6:86%) 現在のところ、目標を上回っている。 ○現在3年生101名 資格取得、平均1人当たり3.6個(9月8日現在) ○7月成績不振者9.2%(R6:15.1%)	○学習支援員事業の活用 「すらら」等を活用し、基礎学力の定着を図る。 ○職業観や参加・体験型学習等の実施 内航船・漁業セミナー等については現在進行中である。 ○授業改善の推進 生徒在校時はTABを所持させICTの活用を推進する。 ○資格 授業や個別指導の充実を図る。	1については、 1年16.7% 2年10% 2①についての参加率 94% 2②については、31.7%(1年33.3% 2年30.0%) 3については、97.1% ○現在のところ目標を達成している。 ○現3年生は195名の資格取得、1人平均6.96 ○TABの持ち帰りやICTの活用などにより成果が出ている。	○学習支援 ・授業外学習時間の増加に向けた取組 ・タブレットの活用方法の工夫 ・放課後支援講座の啓発 ○授業改善 ・ICTの活用・教員の意識改善 ○参加・体験型学習の推進 ・生徒の意識改革 ・目標達成に向かう姿勢と意欲の強化
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	1. 自分という存在を大切に思える生徒の割合85%以上 2. 立場や年齢、考え方の異なる相手でもその意見を聞き、理解しようとする生徒の割合80%以上 3. 地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある生徒の割合55%以上	○学校行事や実習等で積極的な集団活動の実施 ○HRの活用 ○参加・体験型学習の実施 ○QUアンケート・生活アンケートの実施 ○地域清掃活動を年間3回以上実施 ○いじめ防止対策(早期発見・早期支援)	1については、87% 2については、94.7% 3については、57.7% ○清掃活動1回(6月河川敷) ○いじめ防止委員会1回(6月実施) ○学校行事や実習等で積極的に参加体験型学習を実践中	○家庭との連携を継続 ○事前見学や面接指導を実施し、全員の進路決定をめざす。 ○キャリア教育を計画的にすすめる。	1については、88.6% 2については、93.3% 3については、59.1% と目標を上回った。 ○家庭連絡等を定期的に行った。2学期末現在の遅刻平均は(1年1.1、2年3.3、3年5.9)でおおむね目標は達成 ○インターシップや企業との連携事業の成果もあり本科・専攻科ともに進路決定率100%目標達成 ○全校生徒が年2回の地域清掃活動に参加(7月は雨天のため中止)	○TPO教育の推進 ・挨拶や礼儀等の励行 ・欠席・遅刻を減らす取組 ・変化に対応する力の育成 ○保護者等との連携 ・生徒の現状を常に確認 ○キャリア教育の推進 ・学びを通じて、実現したい将来像や実現するまでの過程を明確にする力を養う。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	1. 課題研究では、地域連携活動を実施 2. 教員の専門力向上 3. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある: R6(69.2%)→R7(75%)	○地域清掃活動は、年3回実施 ○地域イベント事は積極的に参加 ○外部講師活用事業等とおして、最新技術を習得する。 ○地元企業との共同開発を実施 ○専門力向上のための研修会を実施 ○課題研究では8割のチームで地域連携課題に取り組む。	1については、6/7チームが地域連携を実施 2については、産研水産部会等の研修を実施3については、71.7%(4月) ○清掃活動1回(6月河川敷) ○5月校内研として3テーマの実践報告 ○HPに生徒の活動を随時掲載中 ○ツナガール等、地域行事に積極的に参加	○清掃活動の計画的に実施 ○課研発表会の外部公開 ○ツナガール、ベンチ、海洋生物等のツールを利用して協働活動を積極的に推進 ○外部講師、インターンシップ等を計画的に実施	1については、6チームが地域と連携 ○地域や関連企業を招き研究発表を実施し高評価を得た。 2については、校内研修等の研修に参加し資質や技術力等が向上した。 3については、75.4% ○ツナガールをはじめとする生徒の活動をHPに随時掲載、各方面から出場要請があり地域連携が定着化してきた。	○地域連携活動の継続 ・学校行事の充実 ・本校の魅力と取り組み等を情報発信 ○体験活動の推進 ・教員の専門知識技術力の向上 ・生徒が地域活動等へ参画し、資質能力の育成
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	1. 意見体験発表会は年2回以上実施 2. 課題解決型学習発表の場を年2回以上設定、外部の方を招へいする	○将来の進路を見据えた意見体験発表会を実施する ○課題研究では、ICT機器を活用し言語能力や実社会での課題解決能力を育成する	1については、5月各HR1名が発表し学校代表1名が四国大会に出場した 2については、継続中	○10月に体験発表会を実施する。 ○課研発表会はコース発表、校内発表、四国発表と段階を踏んで取り組む。	1については、自己の進路を見据えた発表が行え、言語能力の育成に繋がった。 2については、データの活用や表現力などを身に付けることができた。 ○全国水産海洋高等学校生徒研究発表会で奨励賞受賞、四国地区生徒意見発表大会で奨励賞を受賞。高知県高等学校産業教育生徒研究発表会で入交太兵衛大賞受賞し、高い評価を得た。	○生きる力の育成 ・TPOを意識した行動の定着 ・基本的な生活習慣の確立・資格取得の奨励 ○キャリア教育の推進 ・キャリアデザイン能力の育成 ・専門知識・技能の向上 ○自己肯定感の育成 ・課題解決の能力の育成、言語能力や情報活用能力を伸長する場を設定 ・生きる力の育成

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○生徒数の確保 ○学校PRの促進 ○地域連携活動の充実 ○土佐海援丸の有効活用 ○専門的な資格の取得 ○進路実現100%	1. 魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・生徒の発表や体験活動の機会を増やす ・土佐海援丸の総航海日数150日以上 ・乗船延べ人数180人以上(船員除く) ・専門性を生かした水産・海洋関連への進路85%以上 ・卒業までに専門的資格を5つ以上取得 2. 1学年40名を確保 3. 学校運営協議会を年3回実施	○生徒体験・研究発表会への関係者の招致 ○地域みらい留学の活用 ○小中学生向けの体験航海を実施 ○中学校への積極的な学校PR活動 ○HPを積極的に更新 ○資格取得のための補習を積極的に実施	1・2については、 ○地域みらい留学やこうち留学等の成果有。 ○体験入学67名(うち県外:20名)参加(R6:50名うち県外4名) ○8月に県内外の中学校訪問を実施 ○釣りビジョンやRKCの番組に本校生徒が取り上げられ、YouTube再生数55万回を突破(R7.9.9現在) ○HP閲覧数52760回以上(R7.9.9現在)	○11月に中学生体験航海を2日実施 ○海洋祭、魚河岸かいよう等、学校行事を広く公開 ○中学生の学校見学等、積極的に対応する。 ○HPを積極的に活用する。	1・2について、高校説明会等で積極的なPRを実施し、中学生体験航海では定員超えとなり成果があった。 ○みらい留学やこうち留学等の活動成果もありフロンティア入試では、県内で唯一出願率が1.26倍 1学年40名確保に向けて継続して取り組んでいく ○意見体験発表会や生徒研究発表会に関係者を招き、高評価を得た。 ○水産・海洋関連への進路率 75% ○ホームページ閲覧回数 68,263回 3については、3回実施	○生徒数の確保 ・学校PRの促進 ・地域みらい留学、こうち留学等の積極的な活用 ○地域連携活動の充実 ・地域と課題を共有して地域貢献の推進 ○土佐海援丸の有効活用 ・多目的航海の充実・生徒の自立・協働力等の育成 ○学校の魅力化・特色化の発信 ・外部者が学校行事に参加する環境強化 ・生徒が地域イベントへ参加できる環境を構築
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	1. 倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・不注意事案0件、不祥事0件 2. 校内研修の実施(毎月1回実施) 3. 不祥事防止委員会の実施(毎月1回実施)	○服務規律の徹底 ○研修会の実施 ○教職員間の積極的なコミュニケーションにより風通しの良い職場環境に努める ○報連相の徹底 ○メンタルチェックやアンケートを実施 ○校内ルールの策定	1・2・3については、不祥事防止委員会7回実施、校内研修の10回実施(7月末) ○土佐海援丸の船員についても教職員と同様に船内研修を9回実施(人事面談時に個別に実施)	○服務規律については機会あるごとに意識の向上を図る ○管理職が実習船への乗船する機会を増やし、対話の機会をつくる。	1・2・3について、不祥事防止のための校内研修会を学期に2回以上実施し、風通しの良い職場づくりを目指した。 ○教育公務員としての服務規律や報連相の徹底を心掛け、ハラスメント発生件数も0である。 ○指導を要する事案が2件あった。	○服務規律の徹底 ・不祥事防止委員会の活性化や研修会の改善 ○報連相の徹底 ・自分事として考える組織の育成 ○会話が出来る環境の確保 ・風通しの良い職場環境の構築 ・話ができる時間を設ける。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 効果的な教育活動を行うために教員が日々の生活の質や教職人生を豊かにする	1. 時間外45時間超の教職員を5%未満とする 2. 年休の取得推進(年10日以上)	○週1回ノー残業デーを設定する。 ○部活動の休養日を週2日設ける。 ○行事や会議等、業務の見直し・改善 ○アンケートや面談の実施 ○報連相を徹底する。	1について、時間外45時間以上:3名(8月末現在) ○毎水曜日を「ノー残業デー」として、職朝および退勤時間に呼びかける。 2について、年休取得平均7.1日(8月末現在)	○服務規律については機会あるごとに呼びかけ、意識の向上を図る。 ○ノー残業デーの取り組みを継続。 ○「チーム海洋」として一部の教職員に負担が片寄らないように仕掛けをしていく。	1について、時間外45時間超の教職員が5.6%となり目標を達成できなかった。 ○部活動の週休日の設定やノー残業デーを設定した。 ○教職員間のコミュニケーションをはかり、「チーム海洋」として取り組んだ。 2について、年休の取得日数は、一人平均15.0日である。	○時間外45時間0推進 ・部活動の週休日やノー残業デーの設定 ○業務の負担度チェック ・業務分担に偏りが生じることのないよう、管理職によるマネジメントを慎重に実施 ○相談できる場を設ける ・話ができる環境の構築